

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区東矢口 3-27-5 ハイム KOYOSHI102
園名	東矢口きぼうのいずみ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「レインボー」沢山の色と遊ぶ

<テーマの設定理由>

日々の生活の中で子ども達は様々な色に出会います。空の青さや美しい自然の緑、目で見
た色の認識と識別が出来るように導くだけでなく豊かな感情や想像力を育ててほしいと願
い、この活動を企画しました。

また色彩感覚を養う視覚的な刺激だけでなく、様々な形や素材を用いて触覚並びに五感を
刺激することも目的としています。

2. 活動スケジュール

次回活動日 3月11日

「春」をテーマにしたセンサリプレイ

3. 探究活動の実践

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

- ・食紅で着色した6色のヨーグルト ・トレイ ・ゼリーカップ ・スプーン
- ・泡だて器 ・食紅で着色した6色の寒天 ・レンゲ ・透明トレイ ・ライトテーブル
- ・グラス ・マッシャー ・筒状のボトル ・虹の積み木 ・アクリル積み木
- ・カラー窓積み木 ・アクリルストーン ・色分けプレート ・虹色のリボンが付いた鈴
- ・レインボーチューブ

ヨーグルトは子ども達が指で触れやすいようにに平たいトレイに敷き詰めました。重ねて
出来る色の層にも気付いてもらえるようにカップは透明なものを準備し、あけ移し遊びを
想定したスプーンも配置しました。

寒天は光を通すので、透明なトレイの下にライトテーブルを置くことで寒天を輝かせ子ど
もたちの興味を引き出しました。

積み木は色彩感覚を養うだけでなく形の認識、創造力の向上に繋がるので用意しました。

<活動の内容>

ヨーグルト遊びではひんやりとした冷たさやぬるっとした感触だけでなく、酸っぱい香りも感じながら指先で触れ色と色を混ぜたり、スプーンでカップに入れるあけ移し遊びを楽しみました。

寒天遊びでは手で握り潰したり、マッシャーで潰したり、寒天の形状の変化を楽しみました。また筒状のボトルに寒天と水を入れて、水の中でのくるくると回る寒天の動きも観察しました。

そのほかアクリルストーンを用いての色分け遊びや積み木をどこまで高く積み上げられるか、などの遊びも楽しみました。

<活動中の子どもの姿・声、子供同士や保育士との関わり>

はじめは輝きを放つ寒天のブースに興味を示すお子さんが多く、キラキラとした寒天を手で「キレイだね」と沢山の笑顔が見られました。ひんやりとした感触や手で握りつぶした時の「ぐにゅ」とした感触を楽しむ姿やレンゲですくった好きな色の寒天をグラスに入れ大事そうに持ち歩く姿もありました。

一方でヨーグルトは保育者が触れているの見て、恐る恐る手を伸ばす様子でした。保育者が指で混ぜると美しいマール模様が出来上がり、少しずつ子ども達の心にも「やってみようかな」という変化が生まれました。ぬるぬるとした感触を保育者と握手をしたりしながら楽しみました。また、上手にヨーグルトをスプーンですくってカップに注ぎ、かき混ぜた時の色の変化を不思議そうに観察するお子さんも居ました。

積み木遊びでは高く積み上げることに挑戦するお子さんも居れば、長方形の積み木を横に並べ「でんしゃ！」とイメージを膨らませて遊ぶ姿がありました。同様にレインボーチューブも長く繋げて「へびみたい」と表現していました。

最後には子ども達の発想から積み木や寒天をヨーグルトに混ぜ、素敵な一つのアート作品が完成しました。





4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回初めて”センサリープレイ”を体験していただきました。初めて見るものは誰だって慎重になります。保育者の声掛けや笑顔で触れている姿を見て子ども達の心に変化が見受けられ、様々な感触にも触れることが出来ていたので「安心して遊べる環境・雰囲気作り」が改めて大切だなと感じました。

一度触れてしまえば、あとは夢中になって遊ぶ姿がありました。時につまみ食いもして味を確かめながら、五感をフルに活用して楽しめる遊びこそが”センサリープレイ”です。遊びにルールも無く、子ども達が自由な発想で次々に遊びを展開させていきます。遊びの中に変化があるからこそ、「もっとこうしようかな」という探求心が芽生え、新しい発見に繋がり、それが学びになります。

今後も子ども達がワクワクして探求したくなるアクティビティを提供出来るように努めて参ります。